

# 天白川中流域生態調査報告書

## 1. 調査概要

調査場所: 天白川中流部(島田橋上流)  
 名古屋市天白区  
 調査日時: 平成28年5月29日(日) 10:00~15:00  
 天 候: 曇りときどき晴れ  
 調査方法: ①水生生物  
           網による捕獲、目視観察、釣り  
           ②鳥類  
           双眼鏡、デジタルスコープによる観察  
           ③昆虫類  
           ④爬虫類  
 参加人数: 15名(環境 WG ジュニア6名を含む)

### 調査当日のタイムテーブル

10:00	天白川植田川合流部へ集合
10:00-10:10	調査の準備
10:10-12:30	調査(水生生物、昆虫、鳥類)
12:30-13:45	昼食
14:00-14:45	調査(魚類、鳥類、爬虫類)
14:45-15:00	調査結果の集計、記録
	西垣座長の総評
	事務連絡(次回調査予告等)
	撤収準備
15:00	現地解散

## ●調査ポイントの様子



天白川と植田川の合流点



川の様子

## 2. 調査の様子

## 2-1. 水生生物調査の様子



## 2-2. 鳥類調査の様子



### 2-3. 参加者の集合写真



### ★おまけの写真



共食いするアオメアブ(実際には体液を吸っている)



遊泳するアオダイショウ

### 3. 調査結果

#### 3-1. 魚類

	<p style="text-align: center;"><b>フナ類</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Carassius langsdorfii</i></p> <p style="text-align: center;">コイ目 コイ科 コイ亜科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉網で捕獲。</li> <li>・日本各地に分布。</li> <li>・天白川では、ギンブナと共に移入種であるゲンゴロウブナも生息すると思われるが、写真のみでは同定が難しいため、「フナ類」と記載。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>カマツカ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Pseudogobio esocinus</i></p> <p style="text-align: center;">コイ目 コイ科 カマツカ亜科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉網で捕獲。</li> <li>・青森、秋田を除く本州、四国、九州に分布している。</li> <li>・一対の白いヒゲを持っている。</li> <li>・主に底生生物を中心に捕食する雑食性。</li> <li>・砂の中に生息しているため、砂地の場所で捕獲された。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>オオクチバス</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Micropterus salmoides</i></p> <p style="text-align: center;">スズキ目 サンフィッシュ科 オオクチバス属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉網で捕獲。</li> <li>・特定外来生物。</li> <li>・釣りを目的に放流されたものと思われる。</li> <li>・多くの稚魚が捕獲されていることから、天白川流域で繁殖していると思われる。</li> </ul>
	<p style="text-align: center;"><b>カダヤシ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Gambusia affinis</i></p> <p style="text-align: center;">カダヤシ目 カダヤシ亜目 カダヤシ科 カダヤシ亜科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉網で捕獲。</li> <li>・特定外来生物。</li> <li>・尾鰭の端が扇状であることからカダヤシと同定した。</li> <li>※メダカは尾鰭の端が直線的。</li> <li>・カダヤシは卵胎生であり、体内で卵をふ化させて仔魚を生む。</li> </ul>

### 3-2. 甲殻類



**ミナミヌマエビ**  
*Neocaridina denticulata*  
*denticulata*  
 エビ目(十脚目)  
 ヌマエビ科

- ・玉網で捕獲。
  - ・日本固有亜種。種レベルまでは、中国、台湾、朝鮮半島まで分布。
  - ・国内では、「静岡県沼津市周辺、および琵琶湖・淀川水系から九州までに分布」と書かれている文献が多く、愛知県には存在していないと書かれている文献もあるが、実際には県内のあちこちで捕獲することができる。
  - ・近年、名古屋市内でも分布を広げているとの報告もあり、人為的な導入の可能性も否定できない。
- 参考文献: 鎌田他, 名古屋市環境科学研究所所報, 34, 49-56 (2004)
- ・一生を淡水で過ごす陸封型であるため、他の降海型のヌマエビ類(ミゾレヌマエビなど)のように、黒潮の影響で分布を広げたとは考えにくい。
  - ・釣り餌用のシナヌマエビ(ミナミヌマエビの近縁の外来種)や観賞用のミナミヌマエビの遺棄が原因で分布が拡大したとの指摘もある。
  - ・類似種であるミゾレヌマエビと比べ、前側角部に棘(左写真赤矢印)が認められることからミナミヌマエビと同定した。
  - ・シナヌマエビとの区別は、頭部のトゲが触覚の分岐位置より長い事からミナミヌマエビと判断した。
  - ・ヌカエビとの区別は目の角度(ヌカエビは目が一直線(180度)に並ぶ)で判断。
  - ・個体差が非常に大きく、体色のバリエーションが多い(左写真)。
  - ・抱卵個体もいくつか採取でき、河川内で繁殖している事が伺える。

## 3-3. 水生昆虫類


**ハグロトンボ**
*Calopteryx atrata*

蜻蛉目(トンボ目)

イトンボ亜科

カワトンボ上科

カワトンボ科

- ・玉網で捕獲。
- ・調査ポイント周辺で成虫の姿は見かけなかった。
- ・本州、四国、九州に分布。
- ・6~7月頃に最も多く羽化する。
- ・河川の中流域~下流域に生息。
- ・止水よりは緩やかな流れのある環境を好む。
- ・ヤゴの形態に注目すると、
  - ①触覚の第一節が非常に長い
  - ②尾鰓厚く三角形状である
 が事から、カワトンボ科に属する事が分かる。また褐色の体色と模様からハグロトンボのヤゴと同定した。
- ・複数の個体が採取された事から、河川内で繁殖している事が伺える。


**【参考】ハグロトンボの成虫**

(木曾川河川敷で撮影した個体)

(レポート作成)

技術士(衛生工学部門、生物工学部門)

本 堀 雷 太